

後続基数の定義

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2015年2月1日

λ を基数とすると、 λ の「次の大きさの基数」を後続基数 (successor cardinal) という。選択公理があれば基数全体のクラス Card は整列されているから、 λ の後続基数 λ^+ は単に $\lambda^+ := \min\{\mu \in \text{Card} \mid \mu > \lambda\}$ と定義すればよい。しかし選択公理がない場合、後続基数をどのように定義すればよいかは自明ではなく、その定義として次の三つが考えられている。

定義. λ, μ を基数とし、 $\lambda < \mu$ とする。

1. μ が λ の 1-successor $\iff \lambda < \kappa \leq \mu$ ならば $\kappa = \mu$.
2. μ が λ の 2-successor $\iff \lambda < \kappa$ ならば $\mu \leq \kappa$.
3. μ が λ の 3-successor $\iff \kappa < \mu$ ならば $\kappa \leq \lambda$.

この三つの定義の違いは選択公理と関係があり、次の三つを証明することが目的である。

- 1-successor の存在は ZF で証明できる。
- 2-successor の存在は選択公理と同値である。
- 3-successor の存在は ZF で証明できない。

命題 1. μ が λ の 2-successor ならば、 μ は λ の 1-successor である。

証明. $\lambda < \kappa \leq \mu$ とすると 2-successor の定義より $\mu \leq \kappa$ だから $\kappa = \mu$ である。 \square

命題 2. μ が λ の 3-successor ならば、 μ は λ の 1-successor である。

証明. $\lambda < \kappa \leq \mu$ とする。 $\kappa < \mu$ と仮定すると 3-successor の定義より $\kappa \leq \lambda$ となり $\lambda < \kappa$ に矛盾する。故に $\kappa = \mu$ である。 \square

命題 3. 2-successor はもし存在すれば一意である.

証明. μ, ν を λ の 2-successor とする. $\lambda < \mu$ だから, ν が λ の 2-successor であることより $\nu \leq \mu$ となる. 同様にして $\lambda < \nu$ より $\mu \leq \nu$ が分かる. よって $\mu = \nu$ である. \square

補題 4. 基数 λ, μ, κ が $\lambda + \mu = \lambda + \kappa$ を満たすとき, ある基数 ξ, ζ, η が存在して $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \zeta$, $\mu = \xi + \eta$, $\kappa = \zeta + \eta$ を満たす.

証明. 互いに素な集合 X, Y, Z を $|X| = \lambda$, $|Y| = \mu$, $|Z| = \kappa$ となるように取る. すると $|X| + |Y| = |X| + |Z|$ だから全単射 $f: X \cup Y \rightarrow X \cup Z$ が存在する.

$$Y_0 := \{y \in Y \mid \text{任意の } n > 0 \text{ に対して } f^n(y) \in X\}$$

$$Y_1 := Y \setminus Y_0$$

$$X_0 := \bigcup_{n>0} f^n(Y_0)$$

$$X_1 := X \setminus X_0$$

とする. このとき $f|_{X_0 \cup Y_0}: X_0 \cup Y_0 \rightarrow X_0$ は全単射である. よって $\xi := |Y_0|$ と置けば

$$\lambda + \xi = |X| + |Y_0| = |X_1| + |X_0| + |Y_0| = |X_1| + |X_0| = |X| = \lambda$$

である. $\eta := |Y_1|$ とすれば $\mu = |Y| = |Y_0| + |Y_1| = \xi + \eta$ である.

$g := f^{-1}$ に対しても同様のことをする. 即ち

$$Z_0 := \{z \in Z \mid \text{任意の } n > 0 \text{ に対して } f^n(z) \in X\}$$

$$Z_1 := Z \setminus Z_0$$

として $\zeta := |Z_0|$, $\eta' := |Z_1|$ とすれば $\lambda + \zeta = \lambda$, $\kappa = \zeta + \eta'$ となる. 後は $\eta = \eta'$ を示せばよい.

$y \in Y_1$ とすると, 定義からある $n_y > 0$ が一意に存在して $f^1(y), \dots, f^{n_y-1}(y) \in X$, $f^{n_y}(y) \in Z$ が成り立つ. このとき $g^{n_y}(f^{n_y}(y)) \in Y$ だから $f^{n_y}(y) \in Z_1$ である. よって写像 $Y_1 \rightarrow Z_1$ が $Y_1 \ni y \mapsto f^{n_y}(y) \in Z_1$ により定義される. これは明らかに全単射である. よって $\eta = |Y_1| = |Z_1| = \eta'$ である. \square

補題 5. 基数 λ, ν, κ が $\lambda \leq \nu \leq \lambda + \kappa$ を満たすとき, ある基数 $\zeta \leq \kappa$ が存在して $\nu = \lambda + \zeta$ となる.

証明. $\lambda \leq \nu$, $\nu \leq \lambda + \kappa$ だから, ある基数 μ_0, μ_1 により $\lambda + \mu_0 = \nu$, $\nu + \mu_1 = \lambda + \kappa$ と書ける. このとき $\lambda + (\mu_0 + \mu_1) = \lambda + \kappa$ だから, 補題 4 によりある基数 ξ, ζ, η が存在して

$\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \zeta$, $\mu_0 + \mu_1 = \xi + \eta$, $\kappa = \zeta + \eta$ を満たす. すると $\mu_0 \leq \xi + \eta$ だから, 基数 $\xi' \leq \xi$ と $\eta' \leq \eta$ を $\mu_0 = \xi' + \eta'$ となるように取れる. このとき $\lambda \leq \lambda + \xi' \leq \lambda + \xi = \lambda$ だから $\lambda = \lambda + \xi'$ である. このとき $\nu = \lambda + \mu_0 = \lambda + \xi' + \eta' = \lambda + \eta'$ となり, また $\eta' \leq \eta \leq \kappa$ である. \square

命題 6. 任意の基数 λ の 1-successor は存在する.

証明. λ が $\lambda < \lambda + 1$ を満たすならば, 明らかに $\lambda + 1$ が 1-successor である. そうでないとき, 即ち λ が $\lambda = \lambda + 1$ を満たすとき, $\lambda + \lambda^*$ が 1-successor であることを示す. (λ^* は λ の Hartogs 数.)

$\lambda < \mu \leq \lambda + \lambda^*$ とする. 補題 5 によりある $\zeta \leq \lambda^*$ が存在して $\mu = \lambda + \zeta$ となる.

$\zeta < \lambda^*$ と仮定する. Hartogs 数の定義から $\zeta \leq \lambda$ である. よってある κ により $\lambda = \zeta + \kappa$ と書ける.

(i) ζ が無限基数のとき. $\zeta < \lambda^*$ だから ζ はアレフである. よって

$$\mu = \lambda + \zeta = \zeta + \kappa + \zeta = \zeta + \kappa = \lambda$$

となり, $\lambda < \mu$ に矛盾する.

(ii) ζ が有限基数のとき. 今 $\lambda = \lambda + 1$ だったから $\lambda = \lambda + \aleph_0 = \zeta + \kappa + \aleph_0 = \aleph_0 + \kappa$ となる. 故に (i) と同様にして矛盾する.

よって $\zeta = \lambda^*$ である. 故に $\mu = \lambda + \lambda^*$ となるから $\lambda + \lambda^*$ が 1-successor である. \square

定理. 選択公理 \iff 任意の基数 λ の 2-successor は存在する.

証明. (\implies) 明らか.

(\impliedby) 選択公理と同値な条件「任意の無限基数 λ に対して $\lambda + \lambda^* = \lambda^*$ 」を示す.

※ 証明等については濃度の性質を参照

λ を任意の無限基数として, $\lambda^* < \lambda + \lambda^*$ と仮定する. λ^* の 2-successor を μ とすると, $\lambda^* < \lambda^{**}$ だから $\mu \leq \lambda^{**}$ である. よって μ はアレフで $\mu \not\leq \lambda^*$ だから $\lambda^{**} \leq \mu$ となる. 故に $\mu = \lambda^{**}$ が分かる. 今 $\lambda^* < \lambda + \lambda^*$ だったから $\lambda^{**} \leq \lambda + \lambda^*$ である. 故に $\lambda^{***} \leq (\lambda + \lambda^*)^* = \lambda^{**}$ となり矛盾する. \square

補題 7. ある自然数 $k > 0$ に対して $k\lambda + \mu = (k+1)\lambda + \kappa$ となるとき $\lambda + \mu = 2\lambda + \kappa$ である.

証明. k に関する帰納法. $k = 1$ のときは明らか. $k > 1$ とする. このとき $k\lambda + \mu =$

$(k+1)\lambda + \kappa$ より $\lambda + ((k-1)\lambda + \mu) = \lambda + (k\lambda + \kappa)$ である。よって補題4により、ある基数 ξ, ζ, η が存在して $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \zeta$, $(k-1)\lambda + \mu = \xi + \eta$, $k\lambda + \kappa = \zeta + \eta$ を満たす。故に

$$\begin{aligned} (k-1)\lambda + \mu &= (k-2)\lambda + \lambda + \mu \\ &= (k-2)\lambda + \lambda + \zeta + \mu \\ &= (k-1)\lambda + \zeta + \mu \\ &= \xi + \eta + \zeta \\ &= k\lambda + \kappa + \xi \\ &= k\lambda + \kappa \end{aligned}$$

となるから帰納法の仮定により $\lambda + \mu = 2\lambda + \kappa$ である。□

補題 8. 基数 λ が $\lambda < 2\lambda$ を満たすとする。 μ は基数で、 $\lambda + \mu$ が λ の 1-successor であるとする。このとき $\lambda + \mu < 2\lambda + \mu$ 。

証明. $\lambda + \mu = 2\lambda + \mu$ と仮定する。このとき $\lambda < 2\lambda \leq 3\lambda \leq 3\lambda + \mu = 2\lambda + \mu = \lambda + \mu$ である。 $\lambda + \mu$ は λ の 1-successor だったから $2\lambda = 3\lambda$ となる。故に補題7から $\lambda = 2\lambda$ となり矛盾する。□

命題 9. 基数 λ が $\lambda < 2\lambda$ を満たすとする。また基数 μ は $\mu \not\leq \lambda$ で $\lambda + \mu$ が λ の 1-successor であるとする。このとき $\lambda + \mu$ の 3-successor は存在しない。

証明. $\lambda + \mu$ の 3-successor ν が存在すると仮定する。 $\lambda \leq \lambda + \mu < \nu$ である。よってある基数 κ により $\lambda + \kappa = \nu$ と書ける。 $\kappa < \nu$ である。

∴) $\kappa = \nu$ と仮定すると $\lambda + \kappa = \kappa$ である。 $\lambda < 2\lambda$ で、 $\lambda + \mu$ が λ の 1-successor だから補題8により $\lambda + \mu < 2\lambda + \mu$ となる。よって補題7により $2\lambda + \mu < 3\lambda + \mu$ である。従って

$$\lambda + \mu < 2\lambda + \mu < 3\lambda + \mu \leq 2\lambda + \nu = 3\lambda + \kappa = \lambda + \kappa = \nu$$

となる。 ν が $\lambda + \mu$ の 3-successor, 故に 1-successor だからこれは矛盾する。

故に 3-successor の定義から $\kappa \leq \lambda + \mu$ となる。よって $\lambda + \mu < \nu = \lambda + \kappa \leq 2\lambda + \mu$ である。補題5により、ある $\zeta \leq \lambda$ を使って $\nu = \lambda + \mu + \zeta$ と書ける。このとき $\lambda \leq \lambda + \zeta \leq \lambda + \mu$ となる。

∴) $\lambda + \zeta < \lambda + \mu + \zeta = \nu$ が示せれば、3-successor の定義から $\lambda + \zeta \leq \lambda + \mu$ とな

る。よって $\lambda + \zeta < \lambda + \mu + \zeta$ を示せばよい。

$\lambda + \zeta = \lambda + \mu + \zeta$ と仮定する。 $\zeta \leq \lambda$ だから $\zeta + \zeta' = \lambda$ と書ける。このとき

$$\lambda + \lambda = \lambda + \zeta + \zeta' = \lambda + \mu + \zeta + \zeta' = \lambda + (\lambda + \mu)$$

である。故に補題 4 によりある基数 ξ, ρ, η が存在して $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \rho$, $\lambda = \xi + \eta$, $\lambda + \mu = \rho + \eta$ を満たす。このとき

$$\lambda = \lambda + \rho = \xi + \eta + \rho = \xi + \lambda + \mu = \lambda + \mu$$

となり $\lambda + \mu$ が λ の 1-successor であることに矛盾する。

よって $\lambda + \mu$ が λ の 1-successor だったから $\lambda = \lambda + \zeta$ または $\lambda + \zeta \leq \lambda + \mu$ である。

(i) $\lambda = \lambda + \zeta$ のとき。 $\nu = \lambda + \mu + \zeta = \lambda + \mu$ となり ν が $\lambda + \mu$ の 3-successor であることに矛盾する。

(ii) $\lambda + \zeta = \lambda + \mu$ のとき。補題 4 によりある基数 ξ, ρ, η が存在して $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \rho$, $\zeta = \xi + \eta$, $\mu = \rho + \eta$ を満たす。このとき

$$\mu = \rho + \eta \leq \xi + \rho + \eta = \zeta + \rho \leq \lambda + \rho = \lambda$$

となり $\mu \not\leq \lambda$ に矛盾する。 □

命題 10. 基数 λ が $\lambda \geq \aleph_0$ かつ $\lambda < 2\lambda$ を満たすとする。このとき $\lambda + \lambda^*$ の 3-successor は存在しない。

証明. $\lambda \geq \aleph_0$ ならば $\lambda + \lambda^*$ が λ の 1-successor である。故に命題 9 から $\lambda + \lambda^*$ の 3-successor は存在しない。 □

系. 任意の基数が 3-successor を持つ \implies 任意の無限基数 λ に対して $\lambda + \lambda = \lambda$ 。

証明. 命題 10 から、ある無限基数 λ について $\lambda < 2\lambda$ となるとき、ある基数 $\mu \geq \aleph_0$ について $\mu < 2\mu$ となることを示せばよい。

その為に $\mu := \lambda + \aleph_0$ と置く。 $\lambda \not\leq \aleph_0$ としてよい。 $\mu = 2\mu$ と仮定する。即ち $\lambda + \aleph_0 = \lambda + \lambda + \aleph_0$ である。補題 4 により、ある基数 ξ, ζ, η が存在して $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \zeta$, $\aleph_0 = \xi + \eta$, $\lambda + \aleph_0 = \zeta + \eta$ を満たす。今 $\lambda \not\leq \aleph_0$ だから、 $\lambda = \lambda + \xi = \lambda + \zeta$ となる為には $\xi = \zeta = 0$ でなければならない。故に $\lambda + \aleph_0 = \eta = \aleph_0$ だから $\lambda \leq \aleph_0$ となり矛盾する。 □

系. ZF では任意の基数が 3-successor を持つことは証明できない。 □

なお、他にも「任意の基数が一意的な 1-successor を持つ」は選択公理を導かないこと、等も知られている。

参考文献

- [1] John Truss, On successors in cardinal arithmetic, Fund. Math. 78 (1971), 7–21, <http://pldml.icm.edu.pl/pldml/element/bwmeta1.element.bwnjournal-article-fmv78i1p2bwm>